

「現代の保育施設に求められることは ～子育ての意識の変化に着目して～」

1833029 高橋 梨紗

村上ゼミ

幼稚園や保育園等の保育施設によって保護者が抱えている子育てに関する悩みや不安を少しでも解決することはできないだろうか。本研究は、保育施設に勤める保育者と子育てを経験している保護者を調査対象とし、現代の保育施設に求めていることは何かを明らかにした。

先行研究によれば、女性の労働力率は上昇し、共働きの増加傾向等の社会の状況の変化によって、女性のライフスタイルが変化していることが示唆されている。この変化から、女性は多重役割と夫婦間のケア、家事という家族全員のケア、育児という子どもへのケアというトリプルケアの両方の重責を担うこととなり、母親の負担がとてもしんどいという実情が見えた。したがって、これらの家庭や子育てに関わる社会問題などから、本稿では、日々子どもと保護者と深く関わる保育施設は今後どのような対応が必要とされているのかについて検討をした。

第3章の調査では、保育者と保護者それぞれにアンケート調査を行った。まず保育者では、保護者からの相談の実態から、子どもの送迎頻度の多かった保護者の属性や子育てに関する園の相談の頻度等を調査項目とした。保護者の子育てや保育施設の利用形態の変化を分析し、保育施設を利用する保護者の思いや考えを検討した。次に、保護者では、子育てを経験している幅広い年代を対象に、子育ての悩みをどれほど抱えているのか、子育てに関する情報をどのように集めているのか等を調査項目とした。それをもとに子育てをするにあたって親が感じている不安要素は何なのか、また、なぜ不安要素が現れてしまうのかについて検討をした。

二つの調査の結果として、保護者の中で子育てに関する悩みを相談したい人は多くいるものの、相談をする相手がいないと回答している人が存在するということが調査で明らかになった。また、パートナーである夫が子育てに関わっていくことが近年増えてきているが、児童館等の施設を利用したことがあるかという質問では、「利用したことがない」と回答した男性の保護者が多く見受けられた。この結果からまだ男性の育児のイメージが一般化していないため、施設を利用することに抵抗があることが考えられる。さらに保護者の子育てについて感じている悩みでは、保育施設に寄せられている保護者の悩みと保護者が抱えている子育ての悩みと一致していない点はいくつかあった。その多くは保護者自身の悩みであった。

今回の調査では、保護者の回答者の多くが子育てを経験し終えているということから、若い世代で今子育てを経験している保護者の回答が少なく、男性の保護者からの回答も多く得ることができなかった。また、新型コロナウイルスによる子育てや家庭への影響がどのくらいあるのか明確にすることが出来なかったため、別で調査を進める必要がある。